

# 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		8/15-22	8/22-29	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	0.020	不検出
		セシウム137	0.170	0.110
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.087	0.058
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.078	0.038
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.160	0.120
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.066	0.069
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.075	0.048
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.054	0.085
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.074	0.043

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		8/15-22	8/22-29	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.044	0.038
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.036	0.020

検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

渡邊正己 京都大学名誉教授  
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説

第92回目  
大気浮遊じん放射能測定結果の解説  
(平成30年8月15日～平成30年8月29日)  
今回の大気浮遊じん放射能測定の結果にも異常値は見られず、健康影響を心配することはありませんのでご安心ください。今年、不順な天候による大雨で各地で洪水が起きています。そのようなときには、放射性物質が結合している土の成分が泥水となって流されることによって陸上環境の放射能が少なくなります注1。こうした除染効果は、ウエザー効果(天候効果)と呼ばれ、放射性物質で汚染された土地から、放射性物質の物理的半減をもとに予想される速度より早く放射能が無くなってゆく理由となっています。

注1 日本原子力研究開発機構では、福島県の環境内の放射能汚染の長期動態の追跡研究が実施されています。  
<https://fukushima.jaea.go.jp/initiatives/cat01/pdf/project.pdf#search=%27ftrace+project%27>